

## 平成 27 年度 第 1 回 垂水市総合教育会議

1. 日 時 : 平成 27 年 5 月 11 日 (月) 11 : 40 ~ 12 : 28
2. 場 所 : 垂水市市民館 2 階 第 2 研修室
  1. 開 会
  2. 教育委員会制度改革及び総合教育会議の概要について
  3. 市長あいさつ
  4. 協 議
3. 会 次 第 :
  - (1) 教育に関する大綱 (案) について
  - (2) 意見交換
  5. そ の 他
  6. 閉 会
4. 出 席 者 :

・尾脇雅弥 市長	・野村 教育委員長	・長濱 教育長
・田原 教育委員	・葛迫 教育委員	・中谷 教育委員
5. 教育委員会  
同 席 者 :

・保久上 課長	・下江 課長	・森山 課長
---------	--------	--------
6. 傍 聴 者 : なし
7. 事 務 局 :

・角野 課長	・堀留 係長	・有馬 主任主事
--------	--------	----------

---

企画政策課 … ただいまから、平成 27 年度垂水市総合教育会議を開会致します。本日の会議の進行を進めさせていただきます、企画政策課長の角野と申します。どうぞよろしくお願い致します。

まず最初に、教育委員会制度改革及び総合教育会議の概要につきまして、垂水市教育総務課長の方から説明をお願い致します。

---

教育総務課 … それではまず、教育委員会制度改革及び総合教育会議の概要について、お手元の資料 P1 からご覧頂きながら、説明を申し上げます。

本日開会の運びとなりました総合教育会議は、本年 4 月 1 日をもって教育の政治的中立性、継続性、安定性を確保しつつ地方教育行政における責任の明確化、首長、すなわち市長との連携の協議を図る中などの目的で実施された、教育委員会制度改革の一環として、市長と教育委員会との協議、調整の場として設置する事となった会議でございます。

本年 3 月 31 日までの教育委員会制度は、教育の政治的中立性、継続性、安定性を確保し、教育行政に多様な民意を反映する仕組みとして、長年に渡り大きな役割を果たしてきたわけですが、その一方で責任の不明確さ、閉鎖的体質、危機管理能力の低さなどの問題を指摘する声があったのも事実でございました。

教育委員会に対するこのような批判は、いじめや体罰に起因するとみ

---

---

られる自殺事件をきっかけとして高まりを見せ、内閣におかれた教育再生実行会議は制度全体の見直しを求め、この提言を受けた文部科学大臣の諮問に対する中央教育審議会の答申を受けて、文部科学大臣が提出をした「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が成立し、本年4月1日から施行され、今回の改革が行われる事になったわけでございます。

制度改革の内容につきましては、資料P1の下段から掲げておりますが、教育行政の責任の明確化について、P2にありますように、総合教育会議の設置及び教育に関する大綱の策定というものがございます。

本日の総合教育会議は、全ての地方自治体に設ける事となっておりますが、それぞれの執行権限の一部を会議の場で決定するというものではない為、決定機関ではなく市長の諮問に応じて、審議を行う諮問機関でもない。市長と教育委員会という対等な執行機関同士の協議調整の場という位置づけがなされております。なお、会議において、協議、調整がついた事項については、それぞれが尊重義務を負う事から、その方針に基づいて事務執行を行った結果として大綱に定めた目標を達成できなかったとしても、尊重義務違反として該当はしないというものの、教育行政に混乱が生じないようにするためにも十分に協議し、調整を尽くすことが重要であるとされている所であります。また、開催については、規定が本年4月1日に施行され、教育に関する大綱を施行日以降できるだけ速やかに策定する必要があることから本日お集まり頂いて協議して頂こうとするものでございます。なお、今回の大綱策定以外の協議、調整につきましては、今後市長が必要に応じて招集し、開催するものとされております。

---

企画政策課 … ありがとうございます。それでは、次に、尾脇市長からあいさつをお願いいたします。

尾脇市長 … 皆さま、こんにちは。今日は第1回垂水市総合教育会議ということで、ご出席を頂きまして有難うございます。

本年度の大きなテーマの一つが、地方創生だという風に考えております。地方創生につきましては、色んな視点がありますけども、私は地域の将来を考えた時に最も重要な物の一つに、教育、人作りがあるというふうに思っております。

教育委員の皆様と、私ども行政の人間がしっかりと意思疎通をして、一緒になって子どもたちを応援支援をしていくことが、大変重要な事だと思っておりますので、率直な忌憚のない発言をお願いをしたいというふうに思っているところであります。野村委員長をはじめ、委員の皆様方には平素から教育行政の推進に大変なご尽力を頂いておりますことに、感謝を申し上げ本日の会が子どもたちの将来にとって、そして本年度の教育施策が充実することに繋がるように、心から期待を申し上げまして簡単ではございますけども、私からのご挨拶とさせていただきます。本日はどうか宜しくお願い致します。

---

企画政策課 角野課長	… ありがとうございます。それでは、協議事項に入りたいと思います。ここからの協議事項に関する進行は尾脇市長にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。
尾脇市長	… それでは、まず、協議事項（１）教育に関する大綱（案）についてを議題とします。教育総務課から説明をお願いします。
教育総務課 保久上課長	… それでは、手元に配布しております垂水市教育振興計画後期計画（垂水市教育振興に関する施策の大綱）という資料をご覧くださいと思います。
	この大綱は市長が定めることとなっております。先程の説明と一部重複しますが、法が本年４月１日に施行されたため、施行後できるだけ速やかに総合教育会議において協議し、策定する必要がありますことから、本日の開催となりました。そして、今日の議題となっておりますのでございます。
	大綱の趣旨としましては、住民の意向により一層の反映と地方自治体における教育、学術、及び文化の振興に関する施策の総合的な推進を図る為の目標や、施策の根本となる方針を定めるというものでありまして、詳細な施策についてまで策定するというものを、求めているものではございません。
	なお、市長が定めるものとされておりますが、教育委員会の権限に属する事務の管理、執行権を市長に与えたというものではないことを申し添えたいと思います。
	また、大綱の策定に関しましては、教育基本法第１７条の第２項に規定する教育振興基本計画、その他の計画を定めている場合には、その中の目標や施策の根本となる方針に該当すると位置づける事ができると考えられることから、市長が総合教育会議において、教育委員会と協議調整をし、当該計画を大綱にもって変えると判断した場合には、別途大綱を策定する必要はないとされております。
	これらを踏まえまして、本日お示ししております、教育に関する大綱（案）につきましては、昨年度、国や県の次期教育振興基本計画を参酌して策定を致しました垂水市教育振興基本計画後期計画の目標や、施策の根本となる方針の部分が大綱に該当するよう、位置づける事ができるという考え方から、別途、新たな大綱を策定するのではなく、本日お示しをしている大綱案をもって大綱としたいということでご提案をした次第でございます。
	以上で説明を終わりますが、ご協議頂きたいと思います。
尾脇市長	… ありがとうございます。ただいま、教育総務課より説明がありましたけれども、この件について、何かご意見ご質問がありませんでしょうか。いかがでしょうか。
野村委員長	… 今、保久上課長の説明の中にもあったことなんですけども、市長の大綱策定については、平成２７年度４月１日以降、できるだけ速やかにこの総合教育会議において協議し、策定する必要があるということですね。

ども、すでに垂水市教育振興基本計画後期計画というものが、示されているということですが、この当該計画をこの会で協議、調整することで大綱に変えると判断できるのであれば、別途大綱を策定する必要はなくなるのではないのかなと考えます。

教育総務課 … 野村委員長からもありましたように計画があるわけですので、そこにお示ししております大綱（案）というの、基本計画の大きな部分を抜粋した形で策定したものでありまして、今の基本計画を活かして、今回の大綱にすると、今後その中で見直しは必要に応じてできるわけですので、今回それを踏まえて頂いて、また、今後の協議の中で修正を加えていく事は可能であるというふうに考えております。

田原教育委 … 基本計画を開いた下の方が後期計画になるわけですね。ここを大綱員 に変えるのか、これ全体なのか。

教育総務課 … これは、第4次垂水市総合計画との位置関係を示していると考えて頂ければと思います。下の部分が、基本計画になるというふうに。

田原教育委 … 特に下の方が、今までの会の趣旨からすれば今まで教育委員会と市と別にやっていたというのが、子育てとか教育に関するという部分です。それが、下の計画を見るとうまく一致して、教育という視点から福祉がやっている子育て支援というのも入ってくるだろうし、社会教育課が行っている地域での色々な活動なんかもこれに見守るという形で入ってくるだろうし、そういった意味で非常に下の基本計画というものは良くできているなというふうに思ひまして、良いのかなと思っている所です。

尾脇市長 … 大きな所では、垂水総合計画が全体計画としてあるんですけども、その中身を踏襲している計画であるんだと思います。基本的には、今話があった通りだと思いますので、色々な事案が変わっていくケースがあるかと思いますが、その時は適宜対応して頂くという形になるかと思いますが、今まで、市の行政と教育委員会は別個というかたちがあったわけなのですが、ある程度、子ども達をしっかりと育てていくという事に関して連携をしてやっていくというような方向性だと理解をしておりますので、今までできなかった事ができるようになれば良いという風に思っておりますので、そのような視点で今までも良い連携が取れていると思っておりますので、全体を詰めるというふうに私自身は理解をしているところでございます。

中谷教育委 … P1の下から5行目、学校・家庭・地域社会がそれぞれの役割を十分に果たしというところが、良く練られている内容だと思います。これを見た時に、そうだなとうなづく事ができますので、練られている内容だと思います。

長濱教育長 … 本市におきましては、22年11月に10年間の垂水市教育振興計画が作られておりまして、それを作る時に今市長からもありましたように、第4次垂水市総合計画の教育部分を踏まえて、連動した形で振興計画が作られた。今年の3月で、前期の5年間が終り、向う5年間の見直し作業を教育委員会が主体となって実施をしまりました。そういう中で、

今後5年間を作る時に今の時代背景、世相を反映して、そして、国、県の施策を反映して見直しをして、十分時間をかけて練って、そして5年間の後期計画を策定したということであります。

その中には、従来の市の総合計画も踏まえつつ、策定がなされております。その様な事を考えますと、この大綱も教育振興基本計画の後期計画ももって代えるという趣旨に値するのかなと考えております。それは、後期計画を作る時に、市民の方々のパブリックコメントも頂いて、それも踏まえながら修正できるところは修正した所でございます。

教育をすすめる責任者としても、この振興基本計画を大綱にもって代えるという形で、今後の教育行政を進めさせて頂けたら有難いと思っております。

尾脇市長 … 皆さん、大体同じご意見、方向性というふうに理解をしております。それでは、ただいま教育総務課から説明があった通り、了承をするという事にご異議ありませんか。  
（「はい。」とうい声あり。）  
ありがとうございます。それでは、教育に関する大綱（案）については了承されました。  
それでは、次に（2）意見交換に移りたいと思います。特にテーマは設けておりませんので、自由な意見をお願いしたいと思います。  
それでは、皆さんから一言ずつ頂きたいと思います。

#### 【意見交換】

田原教育委員 … 3ページのところの【今後5年間に取り組む施策】の中の、（3）の所。学校・家庭・地域・企業・鹿児島大学等の相互の連携・協働。この中で素晴らしいと思った事が、この協働という言葉です。これは、辞書で引いても出てきません。造語です。垂水市がここに力を入れているという所が見えるのかなという風に思いました。

ただ、行政の方がここへ指導とか、色んな市から地域へ、しようということではなくて、それぞれが持つ教育力、そういうものを発揮しながら、しかもお互いに手を取り合って高めあっていくという、力の影響も及ぼし合うんだなという辺りが見えてくるのかなと。これからもまたそういうのが必要だなというふうに思いました。地域の中で企業とか、あるいは大学の知恵とかいうところも取り込んでいこうという姿が非常に特質される所かなと私は思っております。

葛迫教育委員 … 学校教育というものは、昔から辿っていくと、地域であったり家庭であったり企業であったりだとか、そういう所でその教育というのは訓練されて、子どもたちは育っていくと思うんですね。ただ、学校だけではなくて、そういうことが良くて必要であるなと感じます。

それと、社会教育のことなんですけど、社会教育はいつでも、大人も子供も学んで行かなければいけないということが、必要なかなと思います。これからやってくる、国民文化祭であったり、国体であったりそういうことも踏まえて、我々は考えていかななくてはならないかなと思

ます。どういう風に考えるかというのは、社会教育という事で考えると、国民文化祭が今年はやって来ます。皆が子どもたちもそうなんですけど、垂水市で開催される歴史街道であったり絵画コンクールであったり、新鮮な教育という場が与えられる。絵画を観て、歴史を通して教育がされるということが、必要なんじゃないかなと思います。

尾脇市長 … 今年は国民文化祭という大きなイベントがありますので、一生に一度ないかあるかというくらいですから、せっかくの機会ですからこの機会を捉えて、色んな目的がありますけども、子どもたちの良い経験になればなと思っておりますので、その辺の所を社会教育課長を中心に具体的な物を更に詰めていただきたいと思います。

長濱教育長 … 教育委員会制度が今まで昭和22年、23年頃から施行されて来ているわけですけど、今回の改正にあるものは、教育委員会というのが私ども5人で組織をしてきておりますけども、教育委員の活動が市民の方々に良く分からないというのが一つございます。それから、市民の声を反映されていないという部分もあると思います。もう一つ、教育委員会が責任を取るのか、何か議案が発生した時、教育委員長が責任を取るのか、教育長が責任を取るのか、この辺りが不明確だったということで、今日協議がされたということを確認しております。

そのような中で、今私共は年1回ではありますけども、移動教育委員会を開催しながら、地域住民との意見交換会をしながら教育委員の方々にも校区の実態をこれまで以上に知って頂き、そして教育に反映して頂く。地域住民の皆様にも活動を理解してもらう努力をする。このことは、今後も継続していかなければならないと考えております。

今、学校教育を進める中で一番考えておりますのは、学校の先生方、校長、教頭、教職員は学力向上、生徒指導を初め懸命に努力をして頂いていると私は認識しております。

そこで何があと足りないかなと言いますと、保護者の意識、学力に関しても携帯電話を持たせるにしても、ルール化を図るにしても、やはり親の力をいかに高めていくかという事が問題があると考えております。

学校教育と家庭教育の力が両輪がマッチすれば、まだまだ垂水の学力は伸びますし良い方向に行くのかなと思ってます。

そのような中で、今月14日にPTA総会が開催される予定ですが、PTAの役員側から携帯・スマホ等のルール化を図るものを宣言書を作るようにしております。例えば、9時以降は携帯を持たせない。子どもたちのメールや電話等のやり取りはしないという事を、親の方から声をあげて頂いて宣言書、提言書を打ち出して頂くと。これを全家庭に配って、今後取り組んでいくんですけども、一つ一つ家庭で出来るものを具体的に今後進めていかなければならないなと感じております。

そういう事を踏まえながら、家庭の力を高めていけたらなということを感じているところでございます。

尾脇市長 …… 今、教育長が言われた具体的な取り組み、一つ一つ確実にやって頂いて成果を残して頂きたいと思っています。

中谷教育委員 …… 私は2つお聞きしたいんですけども、1つ目は、保護者として、今度小学校の入学生は何人だよというのを、その季節になると話をするんですが、少子化で子どもたちが居ないという事を市長さんはどういう風に捉えているのかなと。実際に少ないゆえにPTA活動が、仕事が忙しくて出来ないから垂水小学校の大勢の中に入り込んでしまおうという方が、何人か私は知っていてそれを引き留めることも出来ずに。そういう所を統合というのを考えていらっしゃるのか、本当は少ないよねだけではなくて、それをどうすれば大きな学校に移っていかないで済む地域に学校がちゃんと存続できるという事を、皆で考えなければならぬんじゃないかなという時期じゃないかなと私は考えております。

それと、もう1つは、教育は、学力向上というのが一番だと思うのですが、それと同時に一番大事な事と言いますか、表も裏も見せる教育というのを、沢山の体験をさせて。例えば、魚釣りなら魚釣りで例を挙げてみますと、釣りに行く為の準備をして自分で魚を釣った物を頂いて、自分でこしらえて最後まできちっと食べて、それを又食べなかった部分とか海に戻せる物は戻して、鳥達が食べるというような形ですね、表も裏も見せなきゃいけないんじゃないかなという、いかがでしょうか。

尾脇市長 …… 2040年までに鹿児島県全体として、30万人の人が減っていくというのがあるデータが出ています。30万人というのが、大隅の人口以上より減っていくということでもあります。国もこのまま具体的な策を組まなければ、1億2千万人程度ですけど、9千万人程度に減っていくというデータが出ています。これは、自然的な流れで止められない一つの流れではあります。

人間でいったら10代20代を過ぎて、50代60代の円熟期に入っていくって、そういうのがこの国の現状です。ただ、日本の国はそうですけども、世界はアジアを中心に、70億人を超えて90億人に達しようとしております。そういった社会的な過去において、イギリスとかヨーロッパの先進国が経験してきたものを、色々な経験をしているというところでもあります。

垂水市におきましては、高齢化率が約35%。43市町村の中で、8番目に高い高齢化率です。この事も改善しないといけない課題なんですけども、もう一つの年少人口率14歳未満の数は、約10%。43市町村の中で、南大隅町に次いで2番目に低いという現状です。

これが2040年には、南大隅町を抜いて一番低くなるということが懸念されております。自然動態と、生まれる数は変わりません。亡くなる方の数が、高齢化の関係で3倍くらいです。それが一つあるという事と、他の近隣市町村もあるんですが、垂水の場合は地の利が仇となっております。良過ぎて、鹿児島に流出、霧島に流出、鹿屋に流出というのが加速度的に起っております。特に若い世代。ですので、25年にそう

いうことを踏まえて、人口減少対策プログラムというのをどこよりもいち早く立ち上げてみました。そのプランに従って一つ一つ事業を展開している所なんですけども、その成果も上がっているのもありますけども、それだけではなかなか難しいと。行政がやる事だけが十分ではないと、私自身は3本の柱で考えているんですけども、そのことを年間300人減っていますから、これを年間200人にする、100人にする、そしてゼロに近づけて一人でも増えていくということが、人口減少に歯止めをかけて、人口増に繋がるという考え方なんですけども、今言ったこの行政だけのこの思いだけではなかなかだということ。あと連携をしないといけないのが、民間の企業力、資金力を使いながら形にしていく。例えば南中の跡地に、財宝さんが社員寮を作って頂きました。そこで36名の若い人が、世代が住んでおります。その様な事をしながらやっていかなければならない。マンション自体も5億円位掛かっておりますので、なかなか住宅とかやるにしても難しい現状がありますから、民間の成長力を活かしながらそれを上手く取り込んでいくと。南中の跡地も、跡地ですからなかなかそういう意味ではどうしようかなという所にうまくマッチしたんだなと思いますし、跡地に5、60名の雇用の場が新しく出来る予定ですから、そういった政策を色々な所でやりながらどげんかしないといけないというふうに思っております。

それと、国内だけで果して良いのかなと。先程言いましたアジアの成長力を睨みながら6次課題、海外販路を広げていく時にそういった市場ありながらの時に色々な人との交流も含めて色々な考えていかないといけないうらうと思ひます。色々な事をやりながら、300という自然の流れをどう止めるかというのは不透明ですけども、まずは我々がポイントで絞っているのは高齢化率というのも問題なんですけども、年少人口率、子供の数がどんどん減っていく子育て世代のお母さん達に対してのしっかりとした対策を対応していかないといけないうらうと思ひますので、教育委員会の皆様におかれましては、まずは教育の発展と教育の学力向上というのが、一つ大事な事だと思ひますし、それに加えて子育て環境を含めてしっかりと連携をしていかなきゃいけないうらうと思ひますので、ご指摘を頂いたのはその通りだと思ひますし、勿論その認識をもって数年前からどこよりも早く始めておりますけども、なかなか2、30年前の右肩上がり的高度経済成長のような時代ではありません。そういう時期というのは、利益の分配も物があれば作れとあったんですけど、今それが右肩下って自然の流れでありますけども、この流れは止められませんが、その中で見極めてどういふ対策を投じていくかということが大切でありますから、色々な意味で関連して垂水高校の問題とかあります。人が減っていくことによって垂水高校の存続にも繋がっていくわけなんですけども、生活デザイン科と普通科があります。生活デザイン科は、地元産業とマッチして色々カンパチとか色々な物を加工していくことによって、昨年色々な数字を残しているんですけども、普通科

---

は普通科同士の競争となりますから学力向上と、今度の6月議会で皆様のご理解を頂ければ、東進ハイスクールと連携して学力向上の為の体制作りとかそのことによって、垂水高校に地元の子どもたちが行って頂く環境とか、子育て環境を充実することによって、雇用の場を設ける事によって他に行かないで垂水に定着してもらおうということだと思いますので、足元をしっかりと他からの人口増の対策を投じて、そういった意味では地方創生と一番大事なキーワードになって来ていると思いますので、今日企画政策課、担当課長も出席していますけども、十分それぞれ認識をしておりますので、ただ今あったような当然思われることです。柘原に関しては13名です。松ヶ崎が12名ですから、大人の数からすると何故こんなに少ないのかというような状況が起こっていますけども、柘原自身の問題でもあるので、全体として考えて地域振興計画ということで、10年後の柘原をどうやっていくのかということでの中のテーマを、柘原の皆さんに案をまとめて頂いております。それに関して予算の部分では、我々の仕事だと思いますから、ある程度我々も頑張りますし、地元の皆さんもしっかりとどうあるべきか真剣に議論をして頂いて、色んな意味で話はここからだと思いますから、そういったことをやっていかなければいけないんだというふうに思っております。そう意識はもっておりますので、その辺でご協力いただければ有難いと思います。

---

野村委員長 … 本日の総合教育会議の中身の話は今日は出来ないですけども、本日のこの総合教育会議を色々と考えまして、今はその状況であるわけですが、広く会議を起し万機公論に決すべしという言葉がありますけども、新しい教育制度の時代が始まったんだという所です。具体的には書いてありましたけども、地方教育行政の中での責任の明確化、迅速な危機管理体制の構築、市長との連携の強化。いずれも非常に重要なものでありますけども、我々は今から具体的に協力要請の中でピックアップしながら、考えていかななくてはならない。そこに大きな意味があるんだと思います。

とにかく人が集って、色々な事を話し合う。特に集るべき人が集って、あれ、これと、話す。そういう所に意義があるんだと思います。集るべき人というのは、現在この場に集っている我々でありますけども、市長さんと直結した教育行政の新しい形というのが、更に充実し発展していくものと期待をしております。

地域の方々の気持ちをくみ上げながらまとめて、それが上意下達ではなく、地域、皆様の中から「子どもたちが可哀想だと、どうにかしないといけない」というような声が起こってくる、それが大事だと思います。

小規模校をどうするのか、すでに手をつけて政策の中で進めようとしてられている所もありますけども、我が垂水市もまさにその状態に直面しているんだなというのが分ります。そういうことも、我々の教育委員会、この総合会議で、具体的に気持ちを積み上げていければなと思っております。

---

… 今日初めての会合ではありましたが、なかなか普段こういった形で意見交換をするという事がございませんでしたから、率直に我々としては、ただいま申し上げたような経緯で進んでいる事をご理解頂いているんだろうと理解して思っておりましたが、そうではない部分もありまして、委員の皆様がそうであれば地域の皆さんはもっとご理解を頂いてないと、例えば柗原の例がさっきありましたけども、13名と。危機的な状況と、大人の数は1,300人ぐらいいますけども、その中で学校に通う子どもたちがそんだけしかいないという状況というのはなんなのかなというところはしっかりと考えていかないといけませんですし、垂水市というのは、37km、38km東西南北縦長の所でありますので、そういった特異性もありまして、それぞれ9つの地区があつて、中学校は統合致しまして今の状況でいきますと非常に結果として上手くいっているのではないかなと思いますけども、小学校というのは地域のコミュニティの場でもありますので、同じ物指しで量れないわけです。当面ここ4、5年位は子供の数というのは横ばいか若干増えるというデータが出ていますので、我々の方からは統合等考えてはおりませんが、更に10年20年と先を考えますと、このままの状況が続けば何らかの対応を考えないといけない時期がやってくると思いますので、それまでの間に今秘策を投じていかななくてはならないだろうということを思っておりますので、1例申しあげますと、水之上は住宅政策がありまして、50名が70名、100名まではいくということで、そのことが子供の数が増えていく事で地域の元気にも繋がっていくということも明らかでありますので、そういったものを、これまでの右肩上がりの公共事業がある時代はそれにリンクしてという、なかなかそこが難しく、先ほど申し上げた民間とのコラボでそういったものを作りながら、先程財宝さんの話もしましたけれども、独身の方々が36名入って頂ければ、やがて結婚をし子供が出来れば、新城柗原のところに一戸建てを建てて頂ければという思いでこういう策を講じておりますので、全体的なものと地域の魅力を磨いていくということを連携しながらやっていかなければいけないと思いますので、そういった会にさらにしていかなければいけないと思います。

それから先程ありました、情報発信の部分ですけど、教育長がおっしゃっていました。非常にこれは大事なもので垂水市の行政本体としてもかなり力を入れております。1期4年の件数として、700件という、約1億6千万円、言い方を変えればタダで新聞に載せてもらいました。意識しました。意識してやった結果、そういった形で露出致しました。その事で、テレビを見た皆さん、頑張っているね、というお話もありましたので、同じ様に教育行政においても、色んな議論の場の出たこととか、色んな活動をもっとテレビ、新聞に取り上げていただく意識をして、情報発信に努めて頂いて、今回ホームページのシステムも変えましたので、各課から毎日上げられるようになっていきますから、課長さんがおら

---

れますから、担当を決められて毎日流す位の感じで、こういったことをやっていると、勿論ホームページだけが全てではありませんけども、やらなかったことをやったとする必要はありませんけども、やったことをなかなか正しくご理解頂けないケースがあります。皆さんも議論を重ねて、我々も一生懸命やっているんだけども、それでもご理解頂けないケースがありますから、しっかりとやることと、伝えるということをお互いの認識として今後またやっていければなと思いますので、宜しくお願ひ申し上げたいと思います。

最後にその他になりますけれども、皆さんの方でこれはというものが有りましたらご意見頂戴したいと思ひますけれども、いかがでしょうか。

事務局からは何かありませんか。

(「ありません。」という声あり。)

ありがとうございます。それでは、本日の協議事項は終了しました。

---

企画政策課 … お疲れ様でした。本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます  
角野課長 いました。

これをもちまして、平成 27 年度第 1 回垂水市総合教育会議を閉会します。

ありがとうございました。

---

12 : 28 終 了

---